

別紙1

事務事業評価(中間評価)シート【令和元年度】

主管課名(担当名)	教育総務課学校教育担当				
事務事業名	奨学資金貸付運営経費	事業番号	159		
重点プロジェクト	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	評価時期	<input checked="" type="checkbox"/> 中間 <input type="checkbox"/> 事後	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治 <input type="checkbox"/> 法定受託

1 施策体系

施策体系との関連	施策区分	3-5 高等学校教育の充実
	施策目標	豊かな心と健やかな体を育む高等学校教育が充実したまち

2 事務事業の概要と目的

対象	事務や事業が対象としている人や団体など	高校・大学へ進学希望の成績優秀者で経済的理由で就学困難な学生
	対象者の今後の予想	増加傾向
活動内容 (事業の概要や具体的な内容、方法など)	現在、市内中学生の進学率は、ほぼ100%となっており、義務教育的な側面が強くなっていることから、高等教育機関への進学に係る家庭の経済的な負担を軽減するため、入学準備金及び奨学資金を貸付する。	
意図 (どのような成果を得ようとしているのか)	経済的な理由で学生の向学心が排除されることのないよう、教育機会の拡充を図り、保護者の経済負担の軽減を図る。	

3 事務事業の現状

活動指標名	計画値(H27)	実績値					目標値(R2)	目標値(R7)
		H27	H28	H29	H30	R1		
1 奨学資金の貸付件数(年間:新規貸付・継続貸付含む)	5人	5人	7人	8人	7人	7人	5人	5人
2								
3								
4								
事業費(=下記内訳計)				R1予算		R1決算	R2予算	
				1,866		1,438	1,982	
内訳	国道支出金			0		0	0	
	地方債			0		0	0	
	その他			1,213		1,153	1,055	
	一般財源			653		285	927	
人員(人工)				0.17		0.17	0.17	
職員人件費(=人員(人工)×7,693千円)				1,308		1,308	1,308	
総事業費(=事業費+職員人件費)				3,174		2,746	3,290	
単位コスト実績値 1(=総事業費÷成果実績値)				453		392		
単位コスト実績値 2(=総事業費÷成果実績値)				-		-		

#### 4 事務事業の見直し状況や行政課題など

(事前評価にかかげた課題について記入)

見直し状況	■検討中    □見直し・改善済み    □見直しをしたが改善に至っていない    □検討していない
見直しの内容など	国の動向を踏まえながら、給付型奨学金等の実施など、市民がより利用しやすい方法を検討する。
今後の動向・市民ニーズなど	市中経済の低迷により、貸付相談は年間数件程度あるものの、貸付額が少額のため、貸付に繋がるケースは少ないが、潜在的なニーズは一定程度あると思われる。また、新型コロナウイルス感染症の影響による収入減に伴い、新規貸付希望者が増加する可能性はある。

#### 5 事務事業の評価

	■結びついている    □一部結びついている    □結びついていない
ア. 意図する成果に有効に結びついていますか	新規貸付者数は毎年3名程度おり、奨学資金に対する一定の需要はある。
イ. 市以外がその事業に取り組むことは可能ですか (民間、NPO等)	□可能    □一部可能    ■不可能 教育基本法の定めにより、市町村が奨学金制度を実施しなければならない。
ウ. 事業内容の中で、見直しを行う必要はありますか	□ある    ■一部ある    □ない 国では平成29年度より給付型奨学金制度を導入し、また、令和2年度より給付型奨学金制度の拡充を図っているところである。根室市においても、国の動向を踏まえつつ、その必要性を調査・研究し、奨学資金制度を見直す必要があると考える。
エ. 単位コストまたは事業費を工夫できるアイデアはありますか	□ある    □一部ある    ■ない 適切に運用されている。
オ. 他の事業との統合について可能性はありますか	□ある    □一部ある    ■ない 根室市特別奨学資金制度とは貸付対象が異なるため、統合すべきではない。
カ. 受益者に負担をいただく (又は負担を見直す) 可能性はありますか	□ある    □検討の必要性がある    □ない    ■既に負担がある 奨学資金については、全額償還としていることから、既に負担が生じている。

#### 6 事務事業の今後の方向性

今後の方向性	■現状のまま継続 □見直しのうえで継続 (□拡充    □手段を見直す    □効率化    □簡素化    □統合・振替) □終期設定あり (R 年度末終了予定) □休止 □廃止 □完了
--------	---

作成年月日

令和2年6月